



新たな取り組みにチャレンジしています

フードバレーとがち



北出 愛

音更町

山岸牧場さくら工房(士幌町)
造園業、生花屋を経て、実家の山岸牧場で母とヨーグルトを製造販売。ヨーグルトを通じ、自分の牧場の牛乳のおいしさを多くの人に知ってもらうとともに、酪農の素晴らしさを伝える酪農体験の取組も行っています。

「酪農を知る」きっかけづくりを展開します!!

■遊びから「産地を意識するきっかけ」作りのお手伝いをしています!

スーパーでのお買い物ゲームや牛乳実験など、子どもが楽しみながら自然に学べるような体験を重視し、それから「牛乳」「牛」「牧場」と興味を持つ入口を作っていきます。

■新しい取り組みを自らが率先して行い、活動の輪を伝染させていきます!

イタリアで感じた「みんなで一丸となって同じ方向へ向かう」という思いは、十勝でも変わらない一つだと感じました。まずは自分の牧場で子どものお誕生日会や一般の人を対象とした酪農体験を行い、SNS等で発信していきます。

いまの課題は?

■酪農王国と言われる十勝ですが、地元の人でさえどこで酪農体験ができるか分からないのが現状です。

■酪農体験の敷居を低くするために「遊び」や「楽しさ」を前面に出し、酪農を身近に感じてもらう事でリピートに繋げ、牧場側も体験者も双方にとって良い関係を築くことで発展に繋がると考えています。

山岸牧場では、酪農体験を積極的に受け入れて、一般の人たちにも酪農を知ってもらうきっかけを提供しています。



チャレンジ実現に向けた研究内容は?

北イタリアのフィレンツェとトリノのスーパーや農場を周り、消費者教育への取り組み方と教育農場のあり方を調査研究しました。

今回の研修の目的である教育農場の名物おばさん、ステファニアさんにも会いました。



この農場では、ステファニアさん以外にも、彼女の補助や農場の案内を担当する男性もおり、それがフリーランスとして一つの職業が成り立っていました。彼はここでの案内を終えると、また別の農場へと向かいました



トリノのスーパー「イターリー」では、生産地に関する地図や表、すごろくなどがあり、食について自然に学べる環境が整っていました。



農場ではお誕生日会も開かれ、ケーキの代わりに地元で昔から愛されているおやつを作り、みんなでお祝いをしていました。教育農場だからと堅苦しくなるのではなく、農場は休日やお祝いの時間を誰かと過ごす場として成り立っていました。



フードバレーとがち推進協議会の支援(十勝人チャレンジ支援事業)を活用して、以下のテーマで調査研究を行いました。

【テーマ】「酪農という環境」を「楽しんでもらえる」ような「伝え方」を北イタリアで学ぶこと

十勝人チャレンジ支援事業とは?

新たな取り組みにチャレンジする人を支える事業。単なる視察旅行ではなく、自身の経営課題を再認識し、その課題解決のために何が必要か調査研究を行い、実践していくものです。